

令和元年度第1回夏季隊集中訓練



訓練最盛期突入！



(発行所)
11特OB会

(連絡先)
札幌市南区
真駒内17番地
第11特科隊
広報援護室
TEL (011)-581-3191
内線2645

(印刷)
札幌造型合同会社



▲車両による有線構成



▲第一線救護



▲作戦会議による認識の統一



主な記事

二面 令和元年度第2回夏季隊集中訓練
 三面 陸曹候補生履修前教育総合訓練
 四面 令和元年度演習場春季定期整備
 五面 第53回おたる潮まつり参加
 六面 昇任者・転出者・転入者・定年退官者

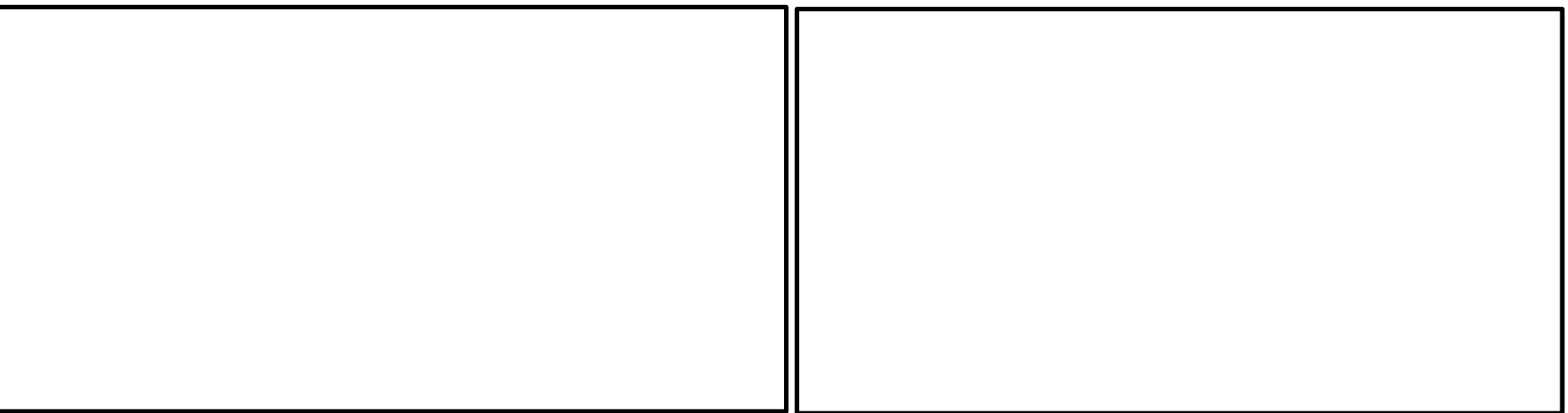
隊は、令和元年5月19日から24日までの間、北海道大演習場（島松地区）において、令和元年度第1回夏季隊集中訓練を行った。

本訓練は、隊の実弾射撃及び夜間の車両行進の練度向上を図るとともに、中隊・小隊・班の部隊訓練を実施した。

20日は、二翁台凹地の演習場春季定期整備における支障木の伐採により拡張した特科射撃陣地において、今年度初となる実弾射撃により、新編成による各機関の連携を強化した。21日から22日は、防衛隊における各中隊の訓練基盤を付与し、陣地の占領、第一線救護等を演習課題として実施する等、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作を徹底した。

また、22日の夜間における隊の車両行進訓練では、適切な行進発揮、行進隊形・速度の維持を演習項目として、行進能力の向上を図った。

訓練間、特科隊の士気は高く、隊員一人一人が任務・役割を考え行動して、実り多い訓練となった。



令和元年度第2回夏季隊集中訓練



▲演戦車隊との火力調整を行う第1中隊長



▲迅速に対空戦闘を行う戦砲隊陸曹

本訓練は、真駒内駐屯地から矢別演習場間の長距離機動も含めて、一件の事故もなく、数多くの教訓と成果を得ることができ、令和元年度第11特科隊実射検閲受閲の基盤を確立した。

第1中隊長は、中隊長(西本3佐)を核心として、これまでの練成成果を遺憾なく発揮して、与えられた任務を完遂した。また、各中隊長計画による訓練を実施させ、班検閲実施する等、それぞれの訓練練度を向上させた。



▲空中観測射撃における斉射

19日から20日は、第1中隊実動検閲を行い、訓練練度を評価するとともに、その進歩向上を促した。

隊は、令和元年6月14日から22日までの間、矢別演習場において、令和元年度第2回夏季隊集中訓練を行った。16日から18日は、99式自走155ミリリゅう弾砲による実弾射撃を行い、各機関の連携、射撃精度・速度の向上を図った。射撃間は、季節外れの寒さや、風雨に見舞われ、厳しい条件下での訓練となったが、副旅団長(永田1佐)の訓練視察を受けるとともに、部隊・隊員それぞれが、訓練目標を持ち、それを実戦して、隊の射撃練度を向上させた。



▲対空を警戒しつつ陣地進入



▲第2中隊長による命令下達

隊は、令和元年7月9日から7月12日までの間、北海道大演習場(島松地区)において、第2中隊実動検閲を行った。本検閲は、受閲中隊の訓練成果を評価するとともに、その進歩向上を促す目的をもって、第18普通科連隊の陣地防御に直接的に協力する射撃中隊として、戦況の推移に基づく状況判断、決心及び指揮を防御準備から火力戦闘までの一連の行動を検した。



▲第一線部隊との火力調整



▲土嚢を積み上げ強固に築城

第2中隊は、9日10時から11日7時30分までの間、綿密な作業行程に基づき、齊々とした築城により、防御準備を概成させ、11日午後からは、火砲の広域分散と頻繁な小移動及び堅固な築城の併用により、健在性を保持するとともに、第一線部隊の状況に即応した火力調整を行い、情報、火力及び機動を連携させ、戦闘の終始にわたり火力戦闘を行った。検閲間は、寒暖差が激しく厳しい環境であったが、中隊長(千葉3佐)を核心として、これまでの練成成果を遺憾なく発揮して、与えられた任務を完遂した。

第2中隊実動検閲

平成31年度91式携帯地对空誘導弾集合教育



▲基本操作訓練(前段訓練)

◀射撃訓練(前段訓練)



◀副旅団長による訓練視察



隊は、平成31年4月11日から4月25日までの間、真駒内駐屯地及び静内駐屯地(対空射撃訓練講堂紫電館)において、平成31年度91式携帯地对空誘導弾(携帯SAM)集合教育を担当・実施した。

本教育は、携帯SAM及び携帯SAM(B)の構造・機能、操作要領、整備並びに射撃要領を修得させるとともに、携帯SAM指導者の育成を目的として、特科隊員のほか、第10即応機動連隊、第18普通科連隊、第28普通科連隊並びに、第11戦車隊の隊員が参加した。

4月16日から27日の訓練では、真駒内駐屯地において、高射特科隊の対空戦の基礎的教育から始まり、航空機の識別及び基本操作訓練(特性、諸元、構造、機能並びに射撃)を反復演練して、組長・射手としての基礎的訓練を行い、4月22日から26日の後段訓練では、静内駐屯地においてシミュレータを活用した実践的な射撃訓練、教育の集大成たる特技検定を行い、対空戦闘員として必要な識能を修得した。

教育参加者からは、「改めて対空戦闘の重要性を認識しました。重責を感じます。」との所見があり、教育に真摯に取り組んでいたことを確認した。

また、4月23日には、副旅団長(永田1佐)の訓練視察を受け、被教育者の携帯SAM操作・射撃要領を確認して頂く等、多くの成果を得て、教育を終了した。

第135期陸曹候補生履修前教育総合訓練

隊は、令和元年6月10日から11日までの間、北海道大演習場(西岡地区)において、陸曹候補生教育隊入校へ向けた準備を万全にするため、陸曹候補生7名に対する履修前教育総合訓練を行った。

本訓練は、教育の集大成であり、小部隊の指揮官としての状況判断能力及び指揮能力について、教育間に積み上げてきた各陸曹候補生の練成成果を確認する目的で行われた。

10日は、各陸曹候補生に対し、それぞれの職務が与えられ、小隊への命令下達に引き続き、斥候としての偵察活動を行った後、集結地において、小隊の偵察結果に基づく戦闘予行を行った。

11日は、早朝より、各陸曹候補生が交代で分隊長となり、敵陣地に対する攻撃により目標を奪取する等、本教育で培った知識・技能を最大限に発揮して、見事任務を完遂した。

総合訓練終了後、隊長より、「履修前教育では、見事に任務を完遂した。自信を持って、陸曹候補生教育隊へ入校するように。」と訓示を受け、陸曹候補生らは背筋を伸ばし、士気を高めた。



▲勇猛果敢に攻撃開始



▲記念撮影

令和元年度 演習場春季定期整備



▲野焼き



▲第二射場整備

隊は、令和元年5月7日から15日までの間、北海道大演習場等において令和元年度演習場春季定期整備を行った。本演習場整備は、島松地区二翁台凹地における支障木（実弾射撃に影響を及ぼす樹木）の伐採をはじめ、観測所整備、真駒内第二射場整備並びに弾着区域整備（不発弾捜索・野焼き）の一部を実施して、訓練基盤の充実及び長期安定使用に寄与するとともに、実戦的な訓練ができる演習場の整備を目的として、「万事作戦」を基準に、確実な命令・指示により整齐と整備を行った。

演習場整備間は、隊務の総合一体化の取り組みとして、実戦的な訓練と直結した演習場の整備、服務環境の充実と部隊の伝統継承及び、兵站能力の向上を目的とした野外炊事等を行い、強い部隊・健全な隊員の育成を図るとともに、11日には、北部方面総監による島松地区二翁台凹地における支障木の伐採の状態について現地指導を頂くとともに、旭ヶ丘宿営地において、北部方面総監、旅団長、副旅団長、旅団幕僚長並びに方面最先任上級曹長を招聘して、意見交換会（野宴）を行い、隊員の心情把握に基づく親身な服務指導、部隊の団結の強化を図った。

また、整備間は、支障木の伐採、不発弾捜索等、危険を伴う任務であったが、万全な安全態勢のもと任務を遂行するとともに、12、13日の隊長点検及び15日の旅団点検をもつて全ての整備を終え、任務を完遂した。

第11旅団創立11周年及び 真駒内駐屯地開庁65周年記念行事

隊は、令和元年6月2日、真駒内駐屯地で行われた第11旅団創立11周年及び真駒内駐屯地開庁65周年記念行事に参加した。

記念式典に先立ち、旅団長感謝状贈呈式が行われ、第11特科隊が日頃からお世話になつている協力団体である、やまぶき会の岡本繁美氏、近藤順子氏及び小樽自衛隊協力会の山本秀明氏が旅団長感謝状を受賞した。

記念式典及び観閲行進では、日頃の訓練成果を遺憾なく発揮して、来賓された方々に威風堂々とその威容を披露するとともに、99式自走155ミリりゅう弾砲の迫力ある行進で観客席を盛り上げた。

また、訓練展示では、島嶼防衛における奪回のため敵を撃破する火力戦闘部隊の一場面を展示して、旅団火力の骨幹である特科部隊をアピールした。

式典後の祝賀会食では、やまぶき会、隊友会、自衛隊協力会並びに自衛隊家族会等の方々から、記念行事に対するお祝いのお言葉を頂く等、盛況のうちに記念式典を終了した。



▲第11特科隊長 高山1佐（観閲行進）



▲旅団長感謝状贈呈式（記念撮影）



▲99式自走155ミリりゅう弾砲の迫力ある行進（観閲行進）

令和元年度 第11旅団友の会一日体験入隊部隊訪問



▲99式自走155ミリりゅう弾砲等の装備品展示



▲82式指揮通信車の体験試乗



▲特科隊記念碑「砲兵魂」の前における記念撮影

隊は、令和元年6月24日、真駒内駐屯地において、令和元年度第11旅団友の会一日体験入隊行事の部隊訪問を担当した。

本訪問においては、当初、旅団友の会及びやまぶき会入隊予定者の2名(下村氏、宮崎氏)に対して、隊長の挨拶に引き続き各中隊長、各科長及び最先任上級曹長等の紹介を行ったのち、部隊訪問者から自己紹介を頂いた。その後、特科隊記念碑「砲兵魂」の前において記念撮影、82式指揮通信車及び99式自走155ミリりゅう弾砲の装備品展示・説明を行うとともに、82式指揮通信車への体験試乗を行った。

展示説明・体験試乗を受けた部隊訪問者からは、「初めての体験なので楽しみにしてました。大変貴重な時間を過ごすことができました。」等の感謝の言葉を頂くとともに、特科隊への理解と第11旅団に対する、より一層の信頼感を醸成した。

第53回おたる潮まつり参加



▲猛暑の中での潮ねりこみ

隊は、令和元年7月27日、小樽市で行われた「第53回おたる潮まつり」の潮ねりこみに参加した。

おたる潮まつりは、7月26日から28日の3日間行われ、中でもメインイベントとなる潮ねりこみには、88団体、約7000人が参加をした。当日は、潮ねりこみを指導して頂いた藤間扇玉先生のほか、自衛隊小樽協力会幹事長及びやまぶき会副会長兼幹事長の大川氏を始め、自衛隊協力会・やまぶき会会員の方々が応援と激励に駆け付けた。

30度を超える猛暑の中ではあったが、64名の特科隊員は、練習の成果を発揮して、多くの観客に自衛官らしい、力強さと、息の合った踊りを披露し、特科隊の隊区である小樽市と同まつりを大いに盛り上げるとともに、地域住民の自衛隊に対する理解の深化と、協力基盤の醸成に寄与した。



▲潮ねりこみ後の記念撮影



▲応援に駆け付けた藤間扇玉先生

7月昇任者

- 一等陸尉へ
 - 河村 智高 (第二中隊)
 - 光永 聡 (第三中隊)
- 二等陸尉へ
 - 藺牟田 卓 (隊本部)
 - 石原 優斗 (第三中隊)
- 陸曹長へ
 - 川崎 智也 (本部管理中隊)
- 一等陸曹へ
 - 麻山 隆司 (第三中隊)
- 二等陸曹へ
 - 高橋 武男 (本部管理中隊)
 - 藤原 友夫 (")
 - 齋藤 芳幸 (第一中隊)
 - 今泉 宏 (第三中隊)
- 三等陸曹へ
 - 佐藤 陽介 (本部管理中隊)
 - 伊保 俊輝 (")
 - 金川 淳希 (第三中隊)
- 陸曹候補生等指定
 - 三浦 悠希 (本部管理中隊)
 - 角田 むつみ (")
 - 小林 翔太 (第二中隊)
 - 吉川 誠一郎 (第三中隊)

昇任おめでとう
 ございます。
 更なるご活躍を
 期待いたします。

8月転出者

- 本部管理中隊
 - 陸曹長 上田 信人
 - 北部方面指揮所訓練支援隊 (東千歳) へ
- 陸曹長 矢取 道春
 - 第二特科連隊 (旭川) へ
- 三等陸曹 松村 誠
 - 富士教導団特科教導隊 (富士) へ
- 第一中隊
 - 三等陸佐 西本 拓
 - 第十二特科隊 (宇都宮) へ
- 三等陸曹 増輪 貴矢
 - 第一空挺団特科大隊 (習志野) へ
- 三等陸曹 林 健斗
 - 北部方面混成団第一陸曹教育隊 (東千歳) へ
- 第二中隊
 - 一等陸尉 河村 智高
 - 富士学校特科部 (富士) へ
- 第三中隊
 - 一等陸曹 川村 直人
 - 札幌駐屯地業務隊 (札幌) へ
- 一等陸曹 森崎 政喜
 - 北部方面総監部付隊 (") へ
- 三等陸曹 渡邊 大輔
 - 北恵庭駐屯地業務隊 (北恵庭) へ

新任地での
 ご活躍を
 お祈りいたします。

8月転入者



第8代 第一中隊長

佐藤 一成
 出身地 青森県
 勤務地 高等工学校 (武山)

- 本部管理中隊
 - 准陸尉 高橋 千尋
 - 札幌駐屯地業務隊 (札幌) より
- 准陸尉 荒川 努
 - 防衛研究所 (市ヶ谷) より
- 准陸尉 米田 誠一
 - 第十一旅団司令部付隊 (真駒内) より
- 陸曹長 深貝 大輔
 - 丘珠駐屯地業務隊 (丘珠) より
- 二等陸曹 富永 大介
 - 北部方面混成団第一陸曹教育隊 (東千歳) より
- 三等陸曹 杉谷 全俊
 - 第二特科連隊 (旭川) より
- 第一中隊
 - 二等陸曹 和泉 大賀
 - 北部方面混成団第二〇教育大隊 (真駒内) より
- 第二中隊
 - 一等陸尉 尾坐 保幸
 - 第七特科連隊 (東千歳) より

定年退官者



城崎 准尉
 1. 5. 10付
 (札幌市)



柴田 3尉
 1. 6. 9付
 (秋田県)



寺本 3尉
 1. 8. 19付
 (札幌市)

() については定年後の就業地

OBの方へ連絡とお願い

一 入門証について

現在、期限切れの入門証をお持ちの方で今後も必要とされる方は、更新手続きをお願いいたします。手続きに関しては、「特科隊広報・援護室」にて行っています。

電話〇一一一五八一―三一九一 (内線二六四七) 担当 嶋田

二 叙位及び死亡叙勲に 関する手続きについて

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出によって手続きを進める事になります。が、手続きの期間が限られており、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなりますが、万が一ご本人が亡くなられた場合には、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へ連絡することをご家族共々くれぐれもお忘れの無いようお願いいたします。

三 その他

特科隊隊舎一階には特科連隊時代の歴史を展示した広報展示室がございます。ご訪問の際にはお気軽にお立ち寄りください。

OB会へのお問い合わせ

電話〇一一一五八一―三一九一 (内線三九四六) 担当 鯨江

特科隊へのお問い合わせ

電話〇一一一五八一―三一九一 (内線二六四六) 担当 吉田